

本革に手染めした紅型ジュエリー 幸せを身につけ日常を特別に

千葉 聖美 沖縄／紅型作家



工房には色を刷り込む刷毛が数多く並ぶ

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催：レクサス)は、日本各地で地域の独自性や技術を生かして新しいモノづくりを挑む「匠」を応援する。

本プロジェクトは2016年、プロジェクトのスーパーバイザーに、放送作家として多くのヒットを手がけ、くまモンの生みの親でもある小山薫堂氏を迎え、牛駒芳子氏(ラッシュ)、ジャーナリスト(アート・プロデューサー)、下川一哉氏(意匠研究所)らをサポートメンバーに発足。以来、全国の若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への指定やロックフェラー家主催のチャリティイベントへの出品、上海での国際的な展示会への出品など、目覚ましい活躍を見せている。

3年目となった今回は、全国47都道府県から計50名の若き匠が選出。昨半夏、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ねるエリア・コンサルティングを経て、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトの制作に取り組んだ。

1月24日、東京ミッドタウン日比谷で行われた発表

レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援

会では、国内外の百貨店・セレクトショップ、バイヤー・メディア・デザイン関係者などに向けて自身のプロダクトをプレゼンテーション。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきっかけとなる大きなチャンスを手にした。

また当日は、2019年の新たな取り組みとして、全国の匠と、世界的クリエイター(コラボレーター)が、新たなプロダクトを制作するコラボレーションプログラムを発表。コラボレーターである隈研吾氏(建築家)、廣川玉枝氏(SOULPAKクリエイティブディレクター)、森永邦彦氏(ARREALAGE)代表取締役社長・デザイナー、辰野しずか氏(クリエイティブディレクター)「プロダクトデザイナー」が登場し、想いを語った。2019年秋頃には、完成したコラボ作品、過去のプロジェクトから生まれた匠たちの作品を披露するイベントを京都の地で開催することを合わせて発表。プロジェクトも一歩一歩進化している。

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。沖縄県選出の匠、紅型作家の千葉聖美さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

福木モチーフに 沖縄の自然表現

台風の影響が多い沖縄では、住居を守る防風林として馴染み深いフクギ。「福木」とも書かれ、幸福を招く木とも言われる。また、古くから紅型の地染めなどの染料としても用いられている。

大切な人や自身への贈り物として「幸せ」を身につけ日常を特別なものにしてほしい。紅型ジュエリーシリーズ「KANASA」は、そんな千葉さんの思いが込められている。福木の葉や、花、つぼみ、実をモチーフにして、色鮮やかな花、山原の深い緑、青い海や空といった沖縄の自然を、紅型らしい華やかな色合いで、立体的で繊細な加工が施された本革の上に表現した。シリーズのピアス、ブレスレット、ネックレスは方言で「可愛らしい、愛しい」を意味するブランド名の通り、どれも可憐だ。葉の間から咲いた花が顔



エリア・コンサルティングにて下川氏と

をのぞかせるピアスは各パーツの大きさから、造形、揺れ方と細部にわたっている。沖縄県立芸術大学、沖縄県工芸指導所で紅型を学び工房を構えた千葉さんの作品は、県内ホテルに採用され、額装した作品が全客室を飾った。



プロダクトについてプレゼンする千葉さん

とも。しかし、これまで紅型作家として表現してきた舞台のほとんどは当然、着物や帯など生地の上だった。

革への紅型染めは以前から試みてはいた。革職人・林尚生さんが営むアトリエショップ楽尚から沖縄の染め、デザインを使った革製品の商品開発で声がかかった。

当初は革に紅型を染めること自体が困難で、試行錯誤を繰り返しながらも財布など、いくつかの商品完成にこぎ着けた。だが、今回は初の挑戦となる立体的で繊細なジュエリーの制作。そして革の両面を染めるという新しい挑戦も加わった。制作にあたっては今回もタッグを組む楽尚と、素材となる革の種類、色、厚みなどを一から見直し、染めに使う型紙も一新して試作を繰り返した。

アドバイス受け 表現が広がった



商談会でプロダクトへの思いを語る

当初、千葉さんは沖縄に映

革との出会い 試作の日々

ようという思いになった。私自身今まで感じたことのない変化だった。」と話す。

千葉さんは、プロジェクトに参加していなければ一生出来なかった経験が出来た。この作品を見直し、課題ややりたいことがより明確になった。琉球ガラスなど、沖縄には素晴らしいものがまだ沢山ある。その組み合わせも考えながら世界に向けて発信していくプロダクトにしていきたい。」と話し、胸を膨らませる。



素材や色、形、揺れ方と細部にまでこだわった

組み合わせる他の素材選びも世界を広げた。福木に琉球漆を施したパーツ、珊瑚や真珠も取り入れブラッシュアップを進めた。千葉さんは、「沖縄の自然や伝統工芸を、世界に知って頂くものづくりをし

気ついた。」と話す。新たな視点で紅型をアピールすることから、紅型を通して沖縄を表現するジュエリー制作に心が決まった。



完成プロダクト 紅型ジュエリーシリーズ「KANASA」

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会



スーパーバイザー 小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。執筆活動の他、京都造形芸術大学副学長、地域・企業のアドバイザー、下鴨茶寮主人などを務める。「くまモン」の生みの親でもある。



工房で紅型制作に励む千葉さん



千葉聖美 沖縄／紅型作家

沖縄県立芸術大学で染色の基礎・紅型の伝統技術を学び、卒業後、沖縄県工芸指導所にて更に高度な技術を身につけ、終了後紅型工房羽衣地を立ち上げる。主に額・帯を中心に制作活動をする。

